

## 施策評価調書(23年度実績)

政策体系	施策名	効率的で持続性のある生産基盤・環境づくり	所管部局名	農林水産部	施策コード	Ⅱ-1-(4)
	政策名	知恵を出し汗をかいてもうかる農林水産業の振興	関係部局名	農林水産部	長期総合計画頁	83

### 【Ⅰ. 主な取り組み】

取組No.	①	②	③	④
取組項目	持続的で安定した経営をめざした水田農業の効率的展開	森林の持つ公益的機能の維持と木材生産機能の増進	資源管理の強化と新たな地域・魚種での養殖業の展開	鳥獣害対策の徹底による被害の軽減

### 【Ⅱ. 目標指標】

指 標	関連する取組No.	基準値		23年度			24年度	27年度	目標達成度(%)					
		年度	基準値	目標値a	実績b	b/a	目標値	目標値	25	50	75	100	125	
i	排水対策済み水田面積(平成13年度以降実施した面積:ha)	①	H15	527	1,666	1,672	100.4%	1,726	2,000					
ii	長期育成循環林の面積(ha)	②	H16	623	7,928	7,992	100.8%	9,196	13,000					
iii	資源管理強化魚種数(魚種)	③	H16	9	11	13	118.2%	14	15					
iv	鳥獣による被害額(百万円/年)	④	H21	313	276	313	88.2%	260	200以下					

### 【Ⅲ. 指標による評価】

評価	理 由 等			平均評価	
i	達成	集落営農組織や大規模生産者を中心に、排水対策による収量・品質の向上効果や新規品目の導入について理解醸成を図った結果、3振興局管内(西部:7.9ha・北部:36.3ha・東部:22.3ha)で排水対策事業を実施し、目標値を達成した。			達成
ii	達成	長期育成循環林へと誘導する間伐施業(1,293ha)を計画的に実施した結果、目標値を達成した。			
iii	達成	資源管理・漁業所得補償対策の実施に伴い、資源管理強化の実施海域や対象魚種の拡大に取り組んだ結果、目標値を達成した。			
iv	達成不十分	実績は目標値に至らなかったが、H22年度に比べ一割減少しており、被害軽減は着実に進んでいる。引き続き、集落環境・予防・捕獲・獣肉利活用等の4つの対策を効果的に実施していく。			

【Ⅳ. 指標以外の観点からの評価】

取組No.	評価
①	・農業者の所得向上、経営安定のための農業者戸別所得補償制度について積極的に制度周知を図った結果、加入者の増加につながった。(H22:21,705件 → H23:23,419件)
②	・森林組合等に対する高性能林業機械の導入支援(3台)を行った結果、効率的な素材生産体制の構築が図られた。
③	・地域に応じた魚種の養殖及びPRを推進した結果、豊前海及び佐賀関地区でヒジキ養殖の普及拡大が進み、両地区で新規5名が着業した。
④	・平成23年8月に大分県鳥獣被害対策本部を立ち上げ、重点集落の指定(17地区)や効果的な防護柵の設置(L=930m)など戦う集落づくりを進めるための取組を推進した。

【Ⅴ. 施策を構成する主要事業の評価】

取組No.	事業名	事務事業評価		事業コスト
		総合評価	掲載頁	
①	1 水田農業構造改革支援事業	現状維持	153	208,844
	2 (公)ほ場整備促進事業	—	—	1,805,729
②	1 集団営林総合対策事業	廃止(23年度末)	155	59,758
	2 (公)造林事業	—	—	1,793,284
③	1 資源管理強化拡大対策事業	現状維持	164	35,775
	2 地域養殖業振興対策事業	見直し(24年度)事業内容の変更	162	20,984
④	1 鳥獣被害総合対策事業	見直し(24年度)事業内容の拡充	157	433,541
	2 森林シカ被害防止対策事業	見直し(24年度)事業内容の拡充	158	90,071

【Ⅵ. 主な取り組みの進捗状況の説明・今後の課題】

進捗状況	取組No.「④鳥獣被害対策の徹底による被害の軽減」について、やや遅れている。	
今後の課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>・米の生産数量目標に即した計画的作付けに向けた市町に対する指導の強化</li> <li>・農業者戸別所得補償制度への更なる加入促進</li> <li>・林業の施業効率化に向けた高性能林業機械の導入促進</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・漁業資源管理のための効率的な種苗放流方法の検討</li> <li>・各振興局に設置の鳥獣被害現地対策本部を中心とした関係機関との連携強化</li> <li>・集落の実情に応じた鳥獣被害防止対策の実施とその強化</li> </ul>

【Ⅶ. 施策に対する意見・提言】

○「安心・活力・発展プラン2005」中間見直し策定委員会(H23.5) ・林業は、材価低迷で厳しい状況にある。機械化や製材所への直接搬入等でコストダウンを図っているが、担い手にメリットのある事業をもっと考えて欲しい。
---

【Ⅷ. 今後の施策展開について】

今後の方向性	施策展開の具体的内容
現状維持	<ul style="list-style-type: none"> <li>・農業者の意向把握や生産数量目標の再配分の取組強化等により、生産数量目標に沿った米生産と需要に応じた飼料米、麦、大豆の作付指導を推進する。</li> <li>・農業企業者や集落営農法人の育成と農地集積を促進することにより、農業者戸別所得補償制度の加入促進を行い、水田農業の経営安定を図る。</li> <li>・森林整備加速化・林業再生基金事業を活用して路網整備や更なる高性能林業機械導入の促進を図る。</li> <li>・種苗放流効果を高めるための公的規制による資源管理を強化推進するとともに、より効果的な放流方法(場所、時期、サイズ等)を確立し、漁業資源の維持増大を図る。</li> <li>・鳥獣被害現地対策本部ごとに、地区住民、猟友会、市町、農協等関係機関を対象とした研修会の開催や被害集落への集団指導などを通して、さらなる連携強化を図り、特に戦う集落づくりを中心とした「集落環境対策」の実施とその強化に努める。</li> </ul>